

“鮮度一番！”

No.219

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1～2 / 新コーナー ワーママのジレンマ Vol. 2
- 2 / 新コーナー 『堤中納言物語』 第2話
- 3～4 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4～6 / 第22回総会挨拶 編集後記

新コーナー

ワーママのジレンマ

Vol. 2

石本史子

前回から寄稿させていただいてる「ワーママのジレンマ」ですが、感想を頂戴しまして、誠にありがとうございます。まずはお礼から今回のコラムはスタートです。

第2回目となった今回は「マルチタスクのママの苦労」についてお話したいと思います。働いているお母さんって、大変なんだろうなと漠然と思う方も多いかと思いますが、いったい何が大変だと思いますか？家事育児と仕事の両立？言葉で言うのは簡単ですよ。では具体的に紐解いていきます。

予め申し添えますが、私は一例であって必ずしもすべての人が私と同じわけではないことはご了承くださいませ。

まず家事の両立からみてみましょう。

偉そうに「大変だ～」と言っている私ですが、実際は実家で実母と暮らしているので、多くの家事は本当に本当に母に頼っているのが事実です。本当に母の助けなしにフルタイムなんて、8か月の子どもを抱えて、保育園に預けたとしても、働けないと思っています。というのも、私の朝は授乳から始まるからです。上手に授乳をして、8か月の次女を上手にねんねさせられたところからスタートです。それに失敗すると起きるのが遅くなったり、何をしても泣かれたりして、通常の3倍くらい時間がかかるのです。今回は上手に授乳し終えたとして、次のステップに進みます。

この時点で、うまくいけば6時半前には起きられますが、失敗すると7時です。

とにもかくにも大慌てで朝食を作ります。ちなみに、このとき夫は寝ています。私は朝食を作りながら、3歳の長女の相手をし、なだめつつかしつしながら、離乳食、夫と長女の弁当も用意します。自分のことはすべて後回しです。

余談ですが、夫は「お昼はママの愛情のこもったお弁当が食べたい♡」と言います。しかしここには2つの嘘があります。1つは、夫は自分で作りたくないからそう言うのと、もうひとつは、愛情なんてたいしてこもってないことです。そんな余裕朝からあるかいな。

次に、だらだらもたもたしている長女を「早く食べて」と急かしながら、自分の朝食は呑み込むように食べ、次女の生活メモ（保育園に毎日提出）に大急ぎで記入。次女が目覚めれば、おむつ替えや離乳食を与える作業が入ります。ウンチをすればまた大変。この時点で8時前後です。夫は自分の片付けをして、マイペースに出かけていきます。うらやましいです。恨めし

いです。

私は、常時もたもたする長女の朝食を急かすことに加え、なかなかパジャマから着替えようとしないうる厄介な作業も入ります。お弁当をカバンの中に入れ、制服を着せ、髪を結び、通園バック、水筒、その日必要な荷物を二人分用意し（中身は前日夕方うちに準備してある）車を駐車場まで取りに行き、玄関前についたら、車の中に二人の子どもたちの荷物や自分の道具を2～3往復して運び込み、最後に子どもたちをチャイルドシートに乗せて、ようやく保育園に出発進行！

二人を着替えさせて、歯を磨いて、下手すると菓を食後に飲ませるといふ、全身全霊で拒否されうる厄介な作業も入ります。お弁当をカバンの中に入れ、制服を着せ、髪を結び、通園バック、水筒、その日必要な荷物を二人分用意し（中身は前日夕方うちに準備してある）車を駐車場まで取りに行き、玄関前についたら、車の中に二人の子どもたちの荷物や自分の道具を2～3往復して運び込み、最後に子どもたちをチャイルドシートに乗せて、ようやく保育園に出発進行！

なあんた、大したことはない、と思ったそこのあなた。甘い、甘すぎます。この作業の合間に、やれ妹が髪引っ張っただの、ウンチをすただの、姉のながーいトイレタイムが始まったり、ネットのルーターをいたずらしたり、車を取りに行くだけでも「ママっ！」と号泣されて、まとわりついてきたり、靴が気に入らないといちやもん付けられたり、チャイルドシートに乗ることを全力で拒んだり…。何一つとってもスムーズに行かないのです。それが日常です。自分のことは合間合間にしています。家事に加えて、それも母に大きくサポートしてもらっています。

参考までに、車に乗せるのだけで、スムーズに行くと最低5分はかかるのですよ。自分の身一つなら乗るのなんて一瞬ですよ？

職場に着いてようやくほっと一息なんです。

さあ、ワーママの朝のせわしなさが少しでも伝わりましたでしょうか？前半はここまで。次回、後半戦についてお話しします。

新コーナー

『堤中納言物語』を読む

(第2話)

「花桜折る中將」

三条地名研究会 杉野真司

『『堤中納言物語』を読む』の第2話は、「花桜折る中將(はなざくらおるちゅうじょう)」です。『堤中納言物語』の構成は、春夏秋冬、四季の順番に物語が並べられていると言えます。「花桜折る」のタイトルの通り、季節は春です。「花桜折る」という言葉には、どいうやら女性を盗み出す意味が隠されているようです。

唐突ですが、ダスティ・ホフマン主演の映画「卒業」を憶えていますか。「卒業」は、結婚式から花嫁を奪い去るラストシーンが有名です。ドラマなどでこのラストシーンを真似た演出がたびたび繰り返されています。でも、女性を奪い去る設定は、日本の物語の常套手段です。『伊勢物語』や『源氏物語』でも描かれています。今回ご紹介する「花桜折る中將」にも、このラストシーンと似た描写がなされています。違っているのは、日本の平安朝の方がユーモアたっぷりに表現されていることです。

簡単なあらすじは、美貌の貴公子に、意中の姫君があり、我がものにしようとして女性を盗み出すことを計画します。まんまと姫君を盗み出し、上手く行ったと思ったところが、それはなんと尼さん姿の姫君のお婆さんだったというオチで終わります。

『堤中納言物語』を含め、『源氏物語』以後に書かれた物語の主人公は、光源氏のような完璧な男性ではなく、どこか残念な性格を担わされます。「花桜折る中將」の貴公子も、颯爽(さっそう)と姫君を奪い去ることもできず、滑稽(こっけい)な道化役を演じさせられて物語が締めくくられます。(H29.6.30)

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成29年6月7日(水)(AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

8月の運営委員会は、2日(水曜日)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。



1.

第22回総会のご報告

6月10日(土)午後4時より、一ノ木戸にオープンした「TREE(ツリー)」にて総会を開催致しました。昼のお部屋で代表挨拶の後、来賓の市民部地域経営課長山村吉治様より、ご挨拶をいただきました。

副代表村田扶美枝さんの司会進行で議長に小出和子さんを選出し、明るい議事進行のもと、2017年度予算案で、研修費が、前年度使われていなかったため、今年度は有効に活用して欲しいとのご意見をいただきました。その他、全ての議案が承認されたことをご報告致します。

引き続き行った記念講演会は、いろいろな分野でご活躍されている川瀬弓子さんから「ズバリ！ケアプランは自分で創りましょう」というテーマでお話をいただきました。

これから迎える超高齢化社会は、介護保険制度の持続可能性の確保のためにも市民が市民をみるという方向、地域共生社会の実現に向けた取組が、進められていくのだそうです。年をとっても、自分のできることはやり続けていくことが求められています。老後も自分自身の足でしっかりと歩いていく覚悟を持たなければと思いました。

懇親会の会場ツリーは、テントが張ってあって開放感があり、働いている人の接客態度が気持ちよく、三条で採れた材料で作られたハンバーグは、大人の私達にも優しくいただくことが出来ました。

総会の挨拶を4~6ページに載せましたのでお読みください。

2.

“哲学カフェ in ながおか” 参加報告 丸山静江

ウィメンズスタディズ・ネットワーク20周年記念講演会に参加しました。

講師は金井淑子氏。長岡大学(旧長岡短期大学)で、いち早く、1985年中心に「女性学講座」が開講され、県内の多方面から、大勢の女性たちが参集しました。時代の流れの中で、それをかわきりに県内の大学で、社会教育の場で、それらに関するテーマの学習の場が広がり、問題意識を持つ多くの人達が誕生しました。県、市町村の行動計画・条例作りにそれらの人達が、積極的にかかわり、大きな力が発揮されました。そここの地で、積極的・間接的に金井淑子さんの存在なくして、新潟県のあの時代の状況は語れません。

男女共同参画の話はさらりと流され、哲学カフェ in OOについて話されました。

哲学の知識は不要。それぞれ女として背負ってきた荷をおろして、心と周囲を見回して、体力・時間資源は限られている中で、何にこだわって生きるか。身の丈に合った社会とのつながり方の模索。当たり前と思われていることを対話しながら、考え直す。立ち止まって、深く考える。自分の意見を述べたり、周囲の意見を聞いたりする。自分の中の問題に向き合い、又他者の問題に向き合う。他者の「声」の空間で、課題を共有する顔の見える関係。苦しさをかかえる当事者。支援する。されている人から見るとハラスメント。対話がなりたつ哲学カフェ。口外しない。

ワタシの“自分ゴト”があなたの“自分ゴト”と重なった時、“他人ゴト”だった問題が“自

分ゴト”になったとき、社会を作る「変化」が始まる。一人ひとりが「社会を変える」方法論とアイデアを学び、“自分ゴト”から始まる社会作りを始めましょうで終わりました。

顔が見えるように並び替えて、交流会。皆それぞれの自分たちの会は、哲学カフェだねと笑顔。最近の若い人は意見交換会をしない。年を重ねたら、意見を述べ合う元気が無い……

3.

燕三条エフエム放送（ラヂオは〜と 76.8MHz）ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00~11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

7月のテーマ 「人生 100 年時代」

- ①新たな人生ステージ ②自分の居場所ありますか？
③5人に1人が認知症の時代？ ④スマイルエイジングを目指して！

メンバー：渡邊晃代（三条市高齢介護課地域包括ケア推進室主任）

松平清美（三条市高齢介護課地域包括ケア推進室主任）

野崎ミチコ、田辺とも子

今年度はじめ、2025年には後期高齢者となる団塊女子メンバーが、その時にそなえるべく、自身の覚悟や願いなどを語り合いました。そのなかで日々進化してきた気配を感じる昨今の“高齢者施策”について、三条市の担当者からお話を伺いたいと考え、お招きいたしました。頼むほうもハッピー、頼まれるほうもハッピーの「ハッピーボランティア」。男性の参加を期待したい「セカンドライフ応援ステーション」。新潟県内8市町ではじまっている「認知症初期集中支援チーム」を三条市は今年度設置するなどをお聞きしました。英文学者の外山滋比古さんが「昔は年取って元気だと一種のエリート意識があった。敬老の精神があった。今は軽んじる軽老。しかし、世のために自分を使うという発想に変えたとき、やっぱり老人というのはたいしたものだと。新しい“敬老”が起こってくると思う」と新聞紙上で語っておられました。年を重ねるごとに落ち込んだ気持ちを引き上げるのに難儀しますが、目標は高く持ち続けたいと思います。どうぞお聴きください。(田辺)

■総会代表あいさつ

三条女性会議代表 野崎ミチコ

こんにちは！

本日は、お忙しいところ三条女性会議総会にお集まりくださりまして誠にありがとうございます。また、三条市から市民部地域経営課長山村吉治様のご臨席を頂きましたことに深く感謝申し上げます。第22回

目の総会を開催するにあたり、初代代表の佐藤リヤウさんから「総会の盛会をお祈りいたします」とのメッセージをいただいています。

さて、今年の4月から燕三条エフエム放送“ワイワイ女性ひろば”が、当会の担当として始まりました。番組では、「超高齢化社会を豊かに」と題して、時代の牽引役としての高齢者の生き方を明るく語り合いました。ですが一方、老後の生活を考えた時、年をとるほど増える医療費や介護費用、それらを年金と少ない貯蓄でまかなえるのかという不安が消えません。

私自身のことで言えば、共働きですので私と夫二人分の年金を合わせれば、健康ならばなんとか暮らしていけるでしょう。

しかし、悲しいことですがもしも夫が亡くなった時には、光熱費、食費といった一人でも二人でもほとんど変わらない費用の他に、住んでいる家の固定資産税の支払い義務が、そのまま残ります。

それに対して収入は、夫の分の年金がなくなったうえ、低い賃金で働いてきた私は、自分の厚生年金がなくなり、国民年金と夫の受け取っていた厚生年金の4分の3だけを受け取ることになります。夫が生きていれば、妻が死んでも自分名義の年金を全額受け取れるのに、夫が死んだときには、きちんと減額するのかよ〜と怒りすら感じてしまいます。

高齢社会をよくする会の理事長である樋口恵子さんは、女性の老後について「生涯にわたる経済的不利益の総決算期が老後である。」と語り、それまでの女性の低賃金や不利な年金制度、性別役割分業が、高齢女性の貧しさの原因であるとしています。

先日、厚生労働省は、今年3月時点の全国の生活保護受給世帯数が164万1532世帯（概数）だったと発表しました。そのうち65歳以上の高齢者世帯は83万7008世帯で全体の51%を占め、初めて半数を超え、高齢者の貧困が拡大を続けていると伝えました。

性別役割分業から老後の貧困に陥りやすい女性ですが、しかし「どっこい、ばあさんは貧乏にめげない、へこたれない」と樋口恵子さんは明るく語っています。

高齢者の貧困の度合いと死亡率の相関関係を調べた調査から、所得が高いほど死亡率は低く、貧しければ貧しいほど死亡率は高くなる。貧富によって寿命の格差が大きいのですが、男性に比べて女性は貧乏への耐性が強く、貧乏の影響が少ないという結果が出ているそうなのです。

女性は、貧乏にも負けず、さまざまな困難に耐えるよう心身が良い意味の「鈍感力」を持っているのです。貧乏も慣れればなんとか生きていけます。生きるための生活の知恵、「金持ちより人もち」、そのコミュニケーション能力を駆使して、人生の最後を迎えるまでみんなで生き切りたいと切に思います。

そしてまた、女性だけでなく男性の皆様も男性ゆえの生きづらさを抱えて日々奮闘していらっしゃることと推察しています。これからも三条女性会議という場で、対話をおして一緒に考え、問題解決に取り組んでいけたらと思っています。

本日は老後つながりで、総会後の記念講演には、講師に川瀬弓子さんをお迎えしました。テーマは「ズバリ！ケアプランは自分で創りましょう」です。人生100年時代の今まさに必要な情報満載の講演内容だと確信しています。どうぞ楽しみにお待ちください。

最後になりましたが、市島教授の「自分と未来は変えられるんだ！少しの勇気があれば」の言葉に力を得て、これからも一日一日を一所懸命に過ごしていきたいと思っています。

今年度もどうぞよろしく願いいたします。

■ 総会来賓あいさつ

市民部地域経営課長山村吉治様

御紹介をいただきました地域経営課長の山村でございます。

第22回三条女性会議総会の開催おめでとうございます。そして本日お招きいただきありがとうございます。

三条女性会議の皆様には、日頃から三條市の行政運営、とりわけ男女共同参画の推進につきまして、多大な御協力をいただいておりますことに対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、先日、県の市町村男女平等推進主管課長会議に出席した際に、東京都豊島区の事例を紹介されました。豊島区は、民間研究機関「日本創成会議」が発表した、少子化と人口減少が止まらず、存続が危ぶまれる市区町村を指摘した「増田レポート」で、東京23区中唯一消滅可能性都市として掲載されたそうです。そこで、豊島区では、女性が暮らしやすい町であることが重要であると考え、人口減少に対する区の施策の中心に男女共同参画を位置付けて取り組みました。まず、当事者の女性から意見を聴取するために「としま100人女子会」及び20歳から34歳までの女性（F1層）を対象とした「としまF1会議」を開催し、様々な意見を聴取したそうです。豊島区がすばらしいところは、聴取した意見に基づき、施策として事業化することを区長が推進していることでもあります。実績も上がっているようで、豊島区は「増田レポート」に掲載されたことを感謝しているそうです。

この豊島区の実績は参考とすべき多くのヒントを含んでいると思います。男女共同参画を独立した考え方に留めず、人口減少施策としている視点は気づきがありましたし、それが本質なのではないかとも感じました。

三條市におきましても、男女共同参画という枠組みだけにとらわれず、広い視点をもって施策に取り組んで参りたいと思いますので、今後とも御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

最後に、本日御参会の皆様のみならず、三條女性会議のますますの御発展を祈念申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。

編集後記：

総会が無事に終わり新年度のスタートに合わせて先回から魅力満載の2つのコーナーが始まりました。雨にも負けず、暑さにも負けず、頑張っているママたち、パパたち、じじ、ばばたちを応援する誌面になればと願っています。鮮度一番219号、どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三條女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三條市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>